

平成26年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	大阪市
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
大阪市	光陽特別支援学校（拠点校）	病弱・肢体不自由

2 研究テーマ

支援機器等を活用した具体的指導内容・指導方法の事例収集と教材データベースの作成及び特別支援学校のセンター機能を活用した小・中学校の特別支援学級での支援機器等活用した特別支援教育に関する研究

3 研究の概要

平成26年度、大阪市特別支援学校10校にタブレット端末を拠点校から貸し出し、各障害種でタブレット端末を中心としたICT機器を活用した指導方法の研究を行った。特別支援学校に研究アドバイザーを派遣し、授業観察、研究協議、研修会等を各校で実施した。指導方法充実検討会議を年間7回開催し、各校の実践を報告するとともに検討を行った。

4 研究の成果及び課題

光陽特別支援学校病弱部門では、4病院 8病室を無料通話ソフトで結んで、総合的な学習を行った。病室という閉ざされた環境の中で過ごしている児童・生徒にとって、年代代と話す機会となり、児童・生徒が積極的に授業に臨むようになった。視覚特別支援学校では、会議用アプリを使用し、手元にあるタブレット端末に教材を配布し、弱視の程度にあわせて、生徒がピンチアウトすることで文字や写真を拡大できるようにしたなど、障害種ごとに実践を深めた。

研究成果については、平成26年12月に実施した、大阪市学力向上コンフェロンス（対象：学校園長、教職員、PTA）にて、特別支援学校におけるICT活用（タブレット端末を中心に）について報告した。また、各校の事例、約100事例を各特別支援学校のHPにアップロードする予定であり、平成27年4月にはICT活用の実践を簡潔にまとめたパンフレットを市内の全校園へ配布する予定である。